

あぶたん つうしん

あぶくま大堰 R E P O R T

ゲート補修

を行っている最中です

ゲートがスムーズに動くようにサイドローラーを整備



この中に設置します

阿武隈大堰では、堰の正常な機能を維持するために、10門あるゲートを毎年1門ずつ計画的に補修しています。

阿武隈川が非出水期(洪水が少なくなる時期の11月～3月)に施工され、塗装や各部材の補修が施されます。

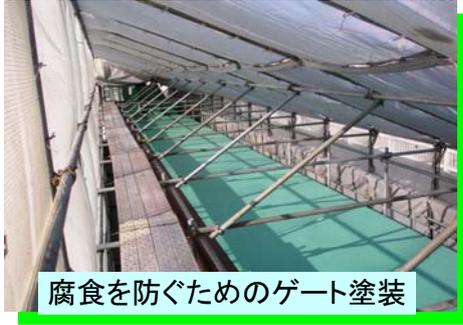
冷たい風が吹き付ける中、真下は阿武隈川という高い場所に足場を組んで塗装作業をしたり、天井の低い場所で膝をつきながらの部品交換等を数ヶ月に渡って行います。

ゲート補修の現場レポートをして感じたことは、「大堰の安全は多くの方に支えられて成り立っている」と言うことです。

このような「メンテナンス」、「日々の点検」によって、阿武隈大堰は健全に稼働しています。



電気防食用の陽極棒交換



腐食を防ぐためのゲート塗装



阿武隈大堰

特別企画★阿部建設監督官に聞く!

今回は中国地方整備局から応援で、東日本大震災により被災した河川堤防本復旧工事の現場監督に来ている、岩沼出張所の阿部建設監督官にお話を聞きました。

Q1. 被災地である東北に来ることについてどのような思いがありましたか。

宮城県には、被災前に石巻や松島を訪れたことがありました。被災時にテレビや新聞で報道されるその風景や状況、人々が苦しんでいるのを見た時は、これが本当に日本で起きている事なのかと疑いたくなる気持ちでした。私が今できることを考えた時、国土交通省の職員として自らが復興に尽力できればと思い、打診の際には迷わず了解しました。

Q2. 今までいた地域と東北の河川ではどのような違いがありますか。

東北地方全ての河川を見ていないので一概には言えませんが、こちらに来て最初に感じたのは堤外民地(高水敷きに田畑が多くある)が多いこと。全国の統計を調べたところ、中国地方では直轄河川全体で高水敷の約1割が民地です。東北地方では約3割。西日本では比較的少ないので誰もがそう感じると思います。ちなみに、直轄河川の数は中国地方、東北地方も同じ12水系です。

Q3. 仕事をする上で心がけていることをお聞かせ下さい。

どこでどんな仕事をしていてもこれは同じだと思いますが、仕事に対するモチベーションを如何にキープするかです。具体的に現在の職場では、地域住民の方々に感謝される工事をするのでしょうか。

休日は奥様と東北各地を巡っているという阿部建設監督官。被災地復興のために尽力してくれている頼もしい東北応援団です。

